


## 海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	枝廣 陽子 
所属機関	順天堂大学医学部血液内科
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究に従事した外国の研究機関名</li> <li>・参加した国際学会・会議名</li> </ul>	<p style="text-align: center;">8th International Conference of Myeloproliferative Neoplasms (EUROPEAN SCHOOL OF HAEMATOLOGY)</p>
渡航期間	自 平成 30年 5月 12日 至 平成 30年 5月 18日
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究内容</li> <li>・国際学会・会議内容</li> </ul>	“ Copy number of <i>JAK2V617F</i> modulates human hematopoietic cell differentiation”
<p>研究成果 （ 要約 : 800 字 ）</p> <p>今回、アイルランドのダブリン近郊で開催されました、8th International Conference of Myeloproliferative Neoplasms に参加させて頂きました。この学会は骨髄増殖性腫瘍に特化しており、欧米を中心に多数の研究者が参加して基礎・臨床の講演を受けるとともに意見交換が行われました。</p> <p>骨髄増殖性腫瘍は、造血幹細胞に体細胞変異が生じ、血液細胞の異常増加や骨髄の線維化が引き起こされる血液疾患です。2005年に多くの患者が <i>JAK2V617F</i> 遺伝子変異を有していることが明らかとなり、その後 <i>MPL</i>、<i>CALR</i> 遺伝子変異が発見されました。骨髄増殖性腫瘍において、これらは非常に重大な発見ではありましたが、その発症の明確な機序は明らかとなっておらず、現在も日々研究がすすめられています。私が所属する研究室においても、<i>CALR</i> 遺伝子とトロンボポエチン受容体との相互作用を研究し、2016年に米国血液学会の学会誌である「Blood」に報告していますことから、今回の学会で他の研究室の研究成果を聞くことができ、大変刺激的な時間となりました。さらには、臨床においても、新たに開発された JAK 阻害薬の臨床試験や、インターフェロンによる治療など話題が尽きず、治療についても最新の知見を得ることができました。</p> <p>また、今回私は、<i>JAK2V617F</i> 変異の役割を明らかにするために、健常者から樹立した人工多能性幹細胞 (iPS 細胞) に CRISPR/Cas9 システムにより <i>JAK2V617F</i> 変異を導入し、ヘテロ接合型とホモ接合型の <i>JAK2V617F</i> 変異がヒトの血球分化に及ぼす影響を解析した成果を発表し、多くの研究者と活発な議論を行うことができました。</p> <p>今回、このような貴重な体験ができましたのも、貴財団からの助成のおかげと考え、ここに心から御礼申し上げます。</p>	